

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
E111B016		家庭科指導法(小) (Pedagogy of Home Economics(Elementary School))							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	2	教育学部		火1	日本語		複数(共同)、オムニバス						
担当教員	氏名 財津 庸子・都甲 由紀子													
	E-mail 財津:yzaitsu@oita-u.ac.jp, 都甲:togo-yukiko@oita-u.ac.jp 内線 財津:7601													
授業の概要	小学校家庭科の目標や内容構成、家庭科の特徴など全体像を把握し、教材研究の方法と学習指導構想の具体的な技術を習得し、3年次の教育実習(小)につなげる。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 家庭科の目標や内容構成、家庭科の特徴など全体像を説明できる										○				
目標2 家庭科の各分野の例示をふまえ、具体的に授業展開例を分析する。									○					
目標3 家庭科の学習方法を習得し、授業を構想し、指導案として表現できる。								○						
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								6	2	2				
授業の内容														
1 家庭科の目標・内容構成・教科の独自性(担当:財津庸子)														
2 家庭科の指導方法・言語活動の取扱い(担当:財津庸子)														
3 年間指導計画・観点別評価の観点(担当:財津庸子)														
4 具体的な授業展開の分析1:A 家庭生活と家族(担当:財津庸子)														
5 具体的な授業展開の分析2:B 日常の食事と調理の基礎(食育含む)(担当:財津庸子)														
6 具体的な授業展開の分析3:B 快適な衣服と住まい1(製作を含む)(担当:都甲由紀子)														
7 具体的な授業展開の分析4:B 快適な衣服と住まい2(担当:都甲由紀子)														
8 具体的な授業展開の分析5:C 身近な消費生活と環境:消費生活の課題と消費者市民教育(担当:財津庸子)														
9 指導技術1(ICT活用)(担当:都甲由紀子)														
10 指導技術2(おもにA・C分野)(担当:財津庸子)														
11 指導技術3(おもに実験・実習)(担当:都甲由紀子)														
12 単元のデザイン1:単元の指導計画の作成(担当:財津庸子)														
13 単元のデザイン2:1単位時間の本時案の作成(担当:財津庸子)														
14 模擬授業および本時案の改善1(A・C分野)(担当:財津庸子・都甲由紀子)														
15 模擬授業および本時案の改善2(B分野)(担当:財津庸子・都甲由紀子)														
ラ イ ク ニ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	○	布を使った製作実習、指導案作成、模擬授業、moodleの活用(フォーラム・アンケート機能・関連内容や資料のリンク紹介等)による意見交換				工夫	その 他 の	小学校教諭をゲストティーチャーとして招聘し、現在の小学校現場における家庭科指導について講義してもらう。					
	B:意見の表現・交換	○												
	C:応用志向	○	や相互評価・自主的学習促進											
	D:知識の活用・創造	○												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	小学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の予習(15h)												
	事後学修	小学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の復習(15h) 製作、指導案作成、模擬授業の練習(15h)												
	想定時間合計	45												
教科書	中西雪夫・小林久美・貴志倫子共編「小中学校家庭科の授業をつくるー5年間を見通すための理論・実践・基礎知識ー」学術図書出版社(2023) ISBN978-4780610765 文部科学省 小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年6月 ISBN978-4491034669, 開隆堂 わたしたちの家庭科5・6 ISBN978-4304080869													
参考書	伊藤葉子編著「新版 授業力UP 家庭科の授業」日本標準(2018) ISBN978-4820806462, 勝田映子「小学校 家庭科授業 成功の極意」明治図書(2016) ISBN978-4181357207, 小・中・高をつなげる試み 大分県の家庭科実践事例集 教育図書(2008) ISBN978-4877302313, お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著「作る手が子どもたちを輝かす② アクティブラーニングが育てるこれからの家庭科」地域教材社(2017), 文部科学省 小学校学習指導要領 平成29年3月告示													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験		50%	○	○								
	布を使った製作		20%			○							
	指導案・模擬授業		20%			○							
	各講義におけるアンケート等		10%	○	○	○							
		上記の評価項目について総合的に判断する。											
注意事項			製作や模擬授業にかかわる物品等については実費自己負担										
備考			取り扱う内容の順番が状況によって入れ替わることがある。 1年次「家庭（小）」でを使用した小学校家庭科教科書も持参することがのぞましい。 実習をともなう教材研究の場合、自己負担が生じることがある。										
リンク													
			URL										
担当教員の 実務経験の有無			○										
教員の 実務経験			中学校・高等学校の家庭科教員（財津庸子・都甲由紀子）										
実務経験を いかした教 育内容			実際の教育現場における指導経験や専門的知識・技能を、学校教育現場の理解に基づく指導のあり方や指導案等に活かす。										